

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 兼 重 順 次 |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 |
| 学位授与番号 | 乙 第653号 |
| 学位授与の日付 | 昭和49年12月31日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当) |
| 学位論文題目 | studies on Citrate Metabolism in Liver In- juries (肝傷害時のクエン酸代謝に関する研究) |
| 論文審査委員 | 教授 水原 舜爾 教授 平木 潔 教授 大藤 真 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝疾患時には一般に血中クエン酸は増加するとされているが、その機序を解明する目的で、正常健康人、慢性肝炎例および肝硬変症例について空腹時血中クエン酸、血中グルコース、血清遊離脂肪酸 (NEFA) を測定し、肝組織所見、腹腔鏡所見および耐糖能障害合併の有無との関連において検討した。ついで、直接肝クエン酸代謝を観察する目的で、対照ラットおよび急性四塩化炭素傷害ラットについてグルコース負荷前後の肝クエン酸を測定し、その代謝応答性を検討した。なお、比較のために対照ラットの腹筋について同様に筋クエン酸を測定した。

空腹時血中クエン酸は慢性肝炎から肝硬変症へと肝疾患が進展するにつれて増加し、かつ血清 NEFA 値との間に強い正の相関が認められた。従って肝疾患時における血中クエン酸の増加は、クエン酸の肝への取り込みの低下及び末梢組織からのクエン酸放出亢進に帰因すると推察された。

また、肝クエン酸はグルコース負荷後、対照ラット肝では増加傾向を認めたのに対して、四塩化炭素傷害ラット肝および対照ラット筋では有意の減少を認め、傷害肝では代謝パターンの面からも肝固有機能の低下が観察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、慢性肝炎及び肝硬変症に於けるクエン酸代謝の様相を、白鼠の四塩化炭素中毒のさいのそれと比較検討したもので肝障害時の代謝究明にとって有意義な論文

と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。